

4月9日(火)

嵐の中でも

聖書朗読 マタイ 8:23~27

私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。

Ⅱコリント 4:8

聖書のあの海の大嵐のお話を皆さんもご存知でしょう。大嵐は私たちの人生でも経験するものでしょう。人生は穏やかなときもありますが、津波が私たちを飲み込むかのように、大嵐がやって来るともあります。

1989年は私にとってそのような年でした。母が他界し、仕事は変わり、末の息子は大学に進学し私の元を去り、夫も私を去って行きました。私は大変落ち込み、孤独を感じていました。

けれどもそのようなとき、友人たちがやって来て、絶望の淵にあった私を救い出してくれたのです。彼らは私にとって、精神的にも霊的にも癒されるまで寄り添ってくれる、神から遣わされた天使のようでした。彼らは、神がどれほど私に思いを掛けているかを感じてくれるかを感じてくれるよう導いてくれました。

神は様々な形で予期せぬ大嵐を与えられますが、そのような大嵐にあっても、私たちを守り導いてくださいます。私には友人たちが天使のように遣わされ、神への信頼を堅固なものとしてくれました。ようやく私も、苦しみに遭っている時も自分が守られていたこと、そして、この先に喜びがあることを悟ることが出来るようになりました。

讃美歌 519

祈り 親愛なる主よ。絶望のときにも、あなた様が恵みを与え続けてくださっていることを感謝します。あなた様以外には得られない助けを、確信することができるようになってください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

テューエル・アン・ホール

テキサス州 ノース・リッチランド・ヒルズ

4月10日(水)

すべてを手放す

聖書朗読 マタイ 13:44~48

「わたしについて来なさい」と言われた。すると彼は立ち上がって、イエスに従った。
マタイ 9:9

天の御国を目指す私たちの信仰の歩みは、冒険であると同時に、何にも代えがたい宝です。イエス様は、聴衆がそれを悟ることを願っておられました。次のようなたとえ話をご存知でしょうか。ある一人の小作人がおりました。彼は借りた畑で作物を育てておりましたが、あるとき畑を耕していると何かに当たりました。見てみるとそれはお金がいっぱい詰まった箱でした。彼はどれ程驚き気持ちが高ぶったことでしょうか。彼は穴を掘りその箱を埋め、自分の持っている物すべてを売り払ってその畑を買いました。そして、そこに埋めた財宝は彼の物となったのです。

さらに次のたとえ話はご存知でしょうか。高価な真珠のお話です。卸売業を営む商人がおりましたが、彼は生涯かけて真珠の逸品を探し求めていました。ある時、それまで見たこともない素晴らしい真珠と出会い、彼はこのたった1つの真珠を手に入れるために、持ち物すべてを売り払ったのでした。たった1つの真珠に彼の心は大きく動かされたのです。

これらのたとえ話は、すべてを差し出す犠牲についての教訓が語られているように思われますが、実はここに犠牲はありません。というのは、これらの人物は、自分たちが手放した以上に価値あるものを手にしているからです。彼らは全財産を手放し、たった1つであっても、何にも代えがたい素晴らしい宝を手に入れたわけです。

イエス様の弟子としての歩みは、そのようなものではなく、すべてを捧げるに値する宝であり、また、喜びでもあるのです。

讃美歌 332

祈り 主なるイエス様。あなた様ご自身の犠牲により、私たちの心が希望と喜びで満たされるようになったことを感謝します。私たちが価値のない思いや行いから離れ、あなた様との交わりという宝に目を向けることができるよう、私たちをお導きください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

マイケル・モス

ウェストバージニア州 パーカーズバーグ

4月11日(木)

主に頼る

聖書朗読 マタイ 14:28~33

主よ「助けてください。私たちはおぼれそうです。」 マタイ 8:25

私は典型的なA型タイプの人間で、あらゆる事をきちんと把握していなければ落ち着かないタイプです。物事を把握しコントロールが出来ていないと、とても不安になります。不安を覚えるのは、自分が把握しきれていない状況では、先でどうなるかが分からないからです。私たちは、毎日が飛ぶように過ぎ去り、物事を把握しきれなくなると、当惑し途方に暮れてしまうのではないのでしょうか。このことから、私は、湖上のイエス様のところまで歩いて行こうとしたペテロのことを思い出します。ペテロは、自分の目を、押し迫る嵐に向けるまでは気丈だったのですが、激しい嵐を見た途端、イエス様がペテロを安全に守ってくださるという確信を失ってしまったのです。

ペテロが肉的に経験したこの嵐は、今日の私たちの人生における嵐を象徴するものではないかと思えます。人生には多くのチャレンジがありますが、そのような時、自分で何とか克服しようと、イエス様を傍らへ追いやってしまうことがあります。けれども、イエス様への信頼を忘れずにいましょう。『思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。』(Iペテロ5:7)というみことばを声に出して言いましょう。イエス様は、私たちが完全に主に信頼し委ねることを願っておられ、喜んで私たちを導こうとしておられます。

讃美歌 285

祈り お父様。私たちが困難に直面するとき、1人ではないということ、そして、あなた様にお委ねすることを思い出させてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

クリスタン・B・ブルックス

フロリダ州 ジャクソンビル

4月12日(金)

同じ罪びと

聖書朗読 マタイ 20:20~28

人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。 マタイ 20:28

ハンセン病患者の隔離集落で献身的に働き、自らハンセン病に感染し亡くなった方のお話をご存知でしょうか。その方は、1840年にベルギーで生まれ、1889年4月15日に、祖国から遠く離れたハワイ州モロカイ島のカラウパパで亡くなりました。このカラウパパは、ハンセン病患者たちが収容されていた隔離集落のある地です。当時のハンセン病患者たちは、社会から拒絶され惨めな生活を強いられていました。このベルギー人は、こうした患者に仕えるために自らカラウパパへ向かったのです。彼は、家や道路、病院や教会を建てながら11年をその地で過ごしました。患者たちは、彼らの痛みを真に理解することなど彼には到底出来ないと言い、彼を快く受け入れることはありませんでした。それでも、彼は患者たちのサポートを続け、誰かが亡くなった際には、その故人のために棺を作り、墓を建ててあげました。彼はこうした働きをする間、出席者は僅かでしたが礼拝を持ち続けていました。やがて彼もハンセン病に感染し、それ以後、それまでのお決まりの「親愛なる友なる皆さん」という礼拝の最初の挨拶は、「私と同じハンセン病患者の仲間の皆さん」という挨拶へと変わりました。

故郷の家族や支援者たちは、治療の為帰国するよう彼を促しましたが、彼は「ようやく私の隣人と近い存在になれたのに、そのような時に彼らから去れと言うのか。僕はこのために来たんだよ」と言って頑なに断りました。そしてこのベルギー人ヨセフは、49歳で、ハンセン病で亡くなりました。

イエス様は天からこの地上に降りて来てくださいました。そしてこの世の私たちの歩みを経験され、私たちの永遠の救いのために十字架にかかってくださいました。イエス様は私たちの苦しみを知っておられます。私たちは、そのことを、自分と同じ罪びとである仲間たちに伝えて行くことができます。イエス様は私たちのことを理解してくださいませ。

讃美歌 367

祈り 父なる神様。イエス様と同じように、私たちも他の人の必要を同じ罪びととして理解できる者としてください。イエス様が仕えてくださったように、私たちも同じ罪びとである隣人に、仕える者としてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

マーク・R・ガイ オハイオ州 ウェストキャロルトン

4月13日(土)

そ こ に い な さ い

聖書朗読 マタイ 26:36~46

主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。

申命 31:6

マタイは、私たちの想像を遥かに超えた、イエス様が経験された苦しみについて記しています。私もこれまでの人生での苦しい経験を鮮明に覚えています。そのような私の経験など、イエス様の苦しみを到底理解できるものではありません。けれども、私に分かることがあるとすれば、ここでイエス様が望んでおられたこと、それは、弟子たちにその場を離れず目をさましていなさいとおっしゃられたように、最も信頼しておられた弟子たちがご自身の苦難を共に理解することを望んでおられたのではないかということです。

けれどもこの時、弟子たちはイエス様の思いに反して、目を覚ましていることが出来ませんでした。その様子をご覧になり、イエス様はどれほど失望されたことでしょうか。それでもなお、究極のご使命を完遂しようとするイエス様の決意は、揺らぐことはありませんでした。

イエス様には、使命として与えられた果たすべき責任がありました。それは究極の自己犠牲であり、その姿勢は宣教の生涯の間一貫して示されています。そして、繰り返しその姿勢を弟子たちに示されることも、とても大切なお働きでした。イエス様はご自身を犠牲にすることから逃れようとは決してなさいませんでした。自己犠牲というものには逃れの道はありません。イエス様は、最後の究極の自己犠牲の時がやってくる「勇気を出して毅然と」向かって行かれました。

私たちは、独りで立ち向かう以外に選択肢のない人生最大の困難に直面することがあるでしょう。けれども、イエス様は完全に私たちを理解してくださり、いつも共にいてくださっています。

讃美歌 296

祈り 私たちのお父様。どうか私があなた様のみこころに忠実な者となり、あなたが私を強めてくださることを覚え、人生の困難に立ち向かうことが出来るよう、私を強くしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

マイク・サンダース

アイダホ州 ボイス

4月14日(日)

溢 れ る 恵 み

聖書朗読 マタイ 6:30~44

神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。

Ⅱコリント 9:8

「踏んだり蹴ったり」、「一難去ってまた一難」などといった表現がありますが、イエス様の弟子たちにとってまさにそのような時がありました。宣教活動を終え疲れ果ててようやく帰郷したところに、悪い知らせが届きます。それは、彼らすべてが慕っていたバプテスマのヨハネが殺されたという知らせでした。さらに、彼らが休息しようとしていたところが、宣教活動に忙しくその間もないところへ、イエス様は、数千もいる人々の空腹を満たすようにとお命じになりました。

このお話を皆さんもご存知でしょう。イエス様はこのとき、僅かのパンと魚に感謝をささげられました。そして、弟子たちがそれを人々に分け与え、人々の空腹を満たされ、パンと魚の残りを集めるとさらに多く残ったというお話です。

この後、イエス様は弟子たちと最後の食事をなさったとき、パンを取り祝福した後、これを裂き、彼らに与えられた(マルコ14:22)とありますが、この箇所には、マルコ6章41節の5千人に食事を与えられた箇所と同じことばが記されています。このパンをイエス様は、ご自身のからだであると言っておられますが、これは、私たちすべてに与えられているものです。

ここで大切な点は、私たちもイエス様の弟子たちのように、イエス様に従い、私たちに養ってくださるその命を受け入れるとき、与えられた課題がどんなに困難と思えても、それを成し遂げるための尽きることのない主の力が与えられるということです。

讃美歌 294

祈り 親愛なる主よ。周りの要求に押し潰されそうなとき、取るに足りない私を捉えお恵み下さい。今日与えられるあなた様の溢れる恵みを分かち合うことができるよう導いてください。感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

イアン・K・シェルブルン

テキサス州 アビリン